

ころ、1 株から 2 頭の幼虫がふ化した。正確に同定するため、飼育により 3 齢幼虫まで成育させた後、林 (2015) や三田村ほか (2017) を参考にして、腹部末端節に長毛をそなえる点や頭部の斑紋などから本種と同定した (図 1)。

自然環境下において、本種の幼虫は 10 月頃から出現し (西城, 2001), 幼虫で越冬 (上手, 2002), 4 月に新成虫が出現することが知られている (林, 2015)。また、筆者は愛媛県鬼北町のため池にて、2010 年 3 月 5 日の 19 時 39 分に、蛹室を作るために上陸した 3 齢幼虫を撮影しており (図 2), 同時刻帯には同様に上陸する幼虫が複数確認された。以上の情報を整理すると、本種は晩夏以降に産卵し、幼虫のまま越冬。初春頃に蛹化のため上陸し、4 月頃には羽化した新成虫が水中で活動を開始するものと考えられる。一般的に幼虫が出現するのは 10 ~ 4 月頃だと推測されるが、三田村ほか (2017) では 7 月に幼虫が確認されている。島根県の野外調査においては、この時期には水田ため池ともに幼虫は確認されていないが (西城, 2001), 寒冷地あるいは生息地によっては夏季にも繁殖する個体がいる可能性も否定できず、情報の蓄積が求められる。

引用文献

- 林 成多, 2015. 山陰地方産水生昆虫図鑑 I 甲虫類 (1). ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (15): 1-98.
上手雄貴, 2002. 北海道におけるゲンゴロウ類の越冬. 甲虫ニュース, (137): 9-12.
三田村敏正・平澤 桂・吉井重幸, 2017. 水生昆虫 1 ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシハンドブック. 176 pp. 文一総合出版.
森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 231 pp. 文一総合出版.
西城 洋, 2001. 島根県の水田と溜め池における水生昆虫の季節的消長と移動. 日本生態学会誌, 51: 1-11.

(渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戊 3 番地
石川県ふれあい昆虫館)

【短報】北限を大きく更新するコヤマトヒゲブトアリヅカムシ (ハネカクシ科アリヅカムシ亜科) の北海道利尻島からの記録

コヤマトヒゲブトアリヅカムシ *Diarthier fossulatus* Sharp, 1883 は、日本本土と朝鮮半島南部に産し、よく知られた好蟻性の甲虫である。Nomura (1998) によれば、その北限は北海道南部 (千歳市美々など) であった。本種は Nomura (1997), Nomura & Komatsu (2012) および Nomura *et al.* (2013) により、以下の通り 8 亜種に分類されている。

コヤマトヒゲブトアリヅカムシ *D. fossulatus* Sharp, 1883: 北海道~九州, 朝鮮半島

D. f. fossulatus Sharp 名義タイプ亜種: 北海道~本州東部 (フォッサマグナ以東)

D. f. izuinsulicola Nomura, 1997 伊豆諸島亜種: 伊豆諸島

D. f. ispartae (Karaman, 1969) 中部近畿亜種: フォッサマグナ以西の中部, 近畿地方

D. f. morimotoi Nomura, 1997 西日本亜種: 中国, 四国, 九州地方北部

D. f. tadauchii Nomura et Komatsu, 2012 対馬亜種: 長崎県対馬

D. f. imasakai Nomura, 1997 島原半島亜種: 長崎県島原半島

D. f. hirashimai Nomura, 1997 南九州亜種: 熊本県南部, 宮崎, 鹿児島県

D. f. dentipes Nomura et Lee, 1992 朝鮮半島亜種: 朝鮮半島, 四国南西部 (愛媛, 高知)



図 1. 北海道利尻島で採集されたコヤマトヒゲブトアリヅカムシ名義タイプ亜種♂ (スケール: 0.5 mm)。

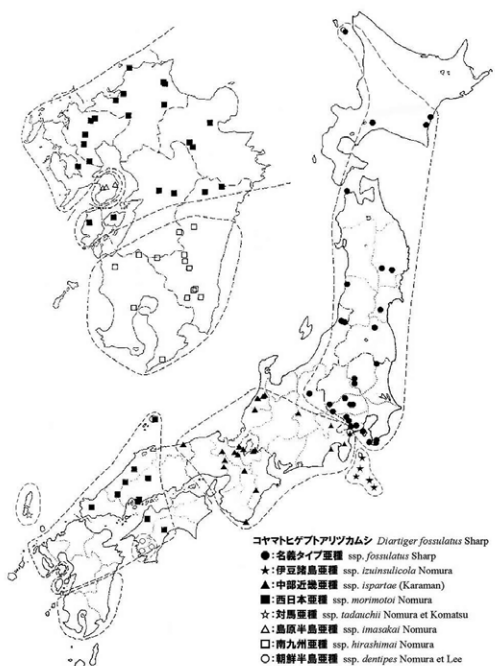


図 2. 更新された、日本国内におけるコヤマトヒゲブトアリヅカムシ 8 亜種の分布図。

筆者の一人吉田は、北海道北部に位置する利尻島においてアリヅカムシの採集を行い、本種を採集した(図1)。この標本を野村が同定し、本稿を作成した。利尻島からは、野村・吉田(2019)によって、7種のアリヅカムシが知られるが、本種は未記録であり、利尻島から8種目のアリヅカムシとなる。

今回得られた標本の形態について詳細に検討したところ、フォッサマグナ以东の東日本からこれまで知られていた、本種の名義タイプ亜種 *ssp. fossulatus* に属することが確認された。これに基づいて本種の分布図を描き直すと、図2のようになった。

<採集データ> コヤマトヒゲブトアリヅカムシ名義タイプ亜種, 1♂1♀, 北海道利尻町字神居(標高22 m, N45°9'39" E141°8'47"), 24. vi. 2019, 吉田正隆採集。

引用文献

- Nomura, S., 1997. A systematic revision of the Clavigerine genus *Diartiger* Sharp from East Asia (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). *Esakia*, Fukuoka, (37): 77-110
- Nomura, S. & T. Komatsu, 2012. Two new subspecies of *Diartiger fossulatus* Sharp (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae) from Japan. *Esakia*, Fukuoka, (52): 9-15.
- Nomura, S., H. Kamezawa, & S. Arai, 2013. A review of pselaphine beetles (Coleoptera, Staphylinidae) from the Izu-shotô Isls., Tokyo, Japan. *Elytra*, Tokyo, new series, 3: 31-43.
- 野村周平・吉田正隆, 2019. 北海道利尻島のアリヅカムシ分布資料. さやばねニューシリーズ, (35): 35-38.

(野村周平 国立科学博物館動物研究部
(nomura@kahaku.go.jp))
(吉田正隆 770-0047 徳島市市東町1丁目295-1
(konchu@sea.plala.or.jp))



図1. ババツノヒゲアリヅカムシ♂(スケール:0.5 mm)。

【短報】伊良部島におけるババツノヒゲアリヅカムシの記録

伊良部島(面積約30 km²)は宮古島の北西に位置し、同島におけるアリヅカムシ亜科甲虫の記録は一例もない。筆者は同島新記録と思われるババツノヒゲアリヅカムシ *Babascenellus macroscapus* Nomura, 1995(図1)を採集したのでここに報告する。

1♂6♀, 沖縄県宮古島市伊良部池間添牧山, 9. X. 2019, 筆者採集・保管。

本種はNomura(1995)により石垣島から記載され、現在、宮古島、池間島、石垣島、西表島、波照間島、与那国島から知られている(野村, 2013; 柴田ら, 2013)。伊良部島では、開けた森林のリターを篩って採集した(図2)。

末筆ながら、原稿を校閲いただいた東京農業大学昆虫学研究室の小島弘昭教授ならびに国立科学博物館の野村周平博士に厚く御礼申し上げる。



図2. 採集環境(同島南東部の牧山)。

引用文献

- Nomura S., 1995. Descriptions of a new genus and a new species of the tribe Batrisini from Japan (Coleoptera, Pselaphidae). *Esakia*, Fukuoka, (35): 123-128.
- 野村周平, 2013. 宮古島および周辺島嶼で中瀬式ライトトラップ(NLT)によって採集されたアリヅカムシ. さやばねニューシリーズ, (12): 11-17.
- 柴田泰利・丸山宗利・保科英人・岸本年郎・直海俊一郎・野村周平・Volker Puthz・島田 孝・渡辺泰明・山本周平, 2013. 日本産ハネカシ科総目録. 九州大学総合研究博物館研究報告, (11): 69-218.

(樽宗一郎 243-0034 厚木市船子1737
東京農業大学昆虫学研究室)